

園長だより NO115

「いやー 暑いですね」とはじまる毎日の会話、すでに夏バテ気味を超えている身体、夏をどう過ごすかと思うことから、昨今はどう乗り切るかという状況になるほど厳しくなってきました。夏時期の保育が室内中心の生活になって数年が経過します。長時間の保育、いろいろな工夫を凝らし子ども達の生活を考え、支えている現在です。

愛着の形成 (アタッチメント)

園長だよりでは何度か取り上げたのですがアタッチメントとは何だろう？と思う保護者(大人)は多くいます。聞いたことはあるけど具体的な内容までは理解していないとか子育て中のお母さんなら知る機会(学びの機会)はあったけど子育て中に意識して考えたことはあまりないかな等、広く、浸透している言葉ではありません。

その類の専門書は世に出ていますが専門性を有する保育者ではない限り、購入し手にすることは少ないと思います。

メディアでは昨年5月に NHK のすくすく子育てという番組でアタッチメントについて取り上げられたことがありました。

アタッチメントとは子どもが不安な時に身近な大人にくっつき安心感を得ようとする行動です。赤ちゃんが泣いているときに抱き上げ、あやす、「おかあさんが一緒にいるから大

丈夫だよ」 ※お父さんでもおばあちゃんでも
保育者でもそばにいる大人が寄り添う

と接する。こんな当たり前の行為の繰り返し子ども達の成長(心も身体)には大切な栄養素なんです。

古き良き時代、むかし、むかしの生活環境は「向こう三軒両隣」というように我が子だけでなくご近所の子どもにも目を向け、優しく時には厳しく、他人の子を我が子同然に育てていた文化がありました。私も斜め向かいに住んでいたおばあちゃんには優しく接していただき、生計を維持するのがやっとなため、精を出して働いていた両親にかわり時折、面倒をみていただきました。私にはご近所だけでなく、ちょっと離れた方まで声をかけていただいたり、家に上がらせていただきおやつと一緒に食べたりと家族以上に接してくれた方々がいました。小さいながらに自分の存在を嬉しく思える機会を持てていたと思っています。両親に限らず、かかわる大人が受け入れ、認め、ピンチの時も助けてくれる存在があり自分が自分らしく生きていけたと振り返ります。

自分ごとの話から路線を戻します。
アタッチメントとは「くっつく」ことで心理学では「愛着」という意味で使われます。多くの生き物は危険を感じた時にくっつきたいという欲求を持ち、親にくっつくことで危険から回避でき命を維持できることにつながります。人間にとっては、特定の人との関係において気持のつながりが子ども達の育ちに大きく関

係することが明らかになっていると言われています。

入園当初は親から離れる、離されることを感じ取ると涙を流し、身振り、手ぶりも加えて嫌がる姿を体験した方がほとんどではないでしょうか、子ども達にとっては初めての保育園は楽しいところとは程遠い、大好きなお母さん(大人)から離され、その子なりに身をゆだねる信頼できる大人がいないのです。親元から離れ不安や恐怖を感じる体験をするのもこの頃です。

アタッチメントでは子どもが不安や恐怖を感じた時にそばにいる大人にくっつき、その心の動きを安心感に浸りながら回復させていくものです。「大丈夫だよ」「びっくりしたね」「みててあげるね」そんな言葉をかけられ心と身体で感じ取り、気持ちを立て直し、新たに親元から離れ挑戦することができるわけです。

関わりを通じて大人は子どもの安心な安全基地として位置づき基地をベースに、様々な体験をしていくのです。

安心できた、できることが不安を解放させて興味、関心があることに好奇心旺盛に関わることができ夢中になれるのです。

アタッチメントは親でなくてはならないかと思う方もいるでしょう。保育園では入園してからかかわる保育者が愛着形成を育んでいきます。保育園では保育者が親に代わる存在になっていきます。入園当初、泣いていた子どもたちも日を重ねていくと泣くことも徐々に少なくなっていくます。別れ際、大泣きし

ていた子も涙をみせることが徐々になくなります。

初めての園生活では何事も初めてで不安とはいつも隣り合わせですが関係性ができると安心基地(担当保育士)から少しずつ離れ、遊びだしていきます。食事にしても家庭での食べ方とは異なることもありでしょう、他児の気配を感じて食べることに緊張があったことでしょう、入園当初から「大丈夫、一緒だよ」「見ているから(一緒にやってあげるから)安心してね」と応えてあげ関わることを継続してきたことが子どもとの信頼関係を築いていることに繋がっています。

私は毎日の日課で0歳児さくらんぼ組へ窓越し、または引き戸を開け、顔をのぞかせます。子ども達の反応を思い浮かべてください。私の気配を感じると少しずつ後ずさりをする、私と目が合うものなら、周りをきょろきょろ信頼できる保育者を探し、タイミングを計り保育者に高速のハイハイで向かいます。

私の人相が悪いのか、負のオーラが出ているのか敏感に繊細な感性で感じ取り、自己の不安を保育者に受け止めてもらい安定をはかる姿があります。長い間、保育に従事する私にとっては心に響く行為ではあるものの、担任保育者との関係性は育まれていると思う瞬間です。必ず「大丈夫だよ 園長先生だよ」という優しい言葉がけ もうすこしこんなやりとりが続きそうです。こどもの成長の栄養素はアタッチメントだと心にとめておきたいものです。(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)

